

て発表します。また、発表は速報値であるため、季節の移り変わりを精査したのち、9月上旬頃に確定日を改めて発表しています。

・雷

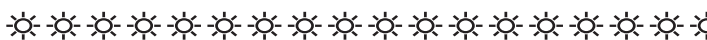
雷は積乱雲(入道雲とも言います)によって発生します。積乱雲の中では、強い上昇気流や下降気流があり、氷のつぶが激しくぶつかりあったり、こすれあったりして出来る静電気がたまっています。これが雲から雲へ、雲から地上へと光と音を伴って放電する現象が雷です。この時発生する光が雷光(稲妻、稲光とも言う)、音が雷鳴です。雷が空気の中をとおり、空気が1万℃以上にも熱せられて瞬間的にふくらみ周りの空気をゆらすため、ゴロゴロ、バリッバリッなどの音が発生します。特に、雲から地上への放電を落雷と呼びます。

雷は、周囲より高いものほど落ちやすいという特徴があります。グラウンドや平地など周囲の開けた場所にいると、雷雲から直接身体に雷が落ちることがあります。雷注意報が発表されていて、雷の音が聞こえ始めたり、黒い雲が近づいてきたら、屋外にいる場合はただちに建物の中や車の中に避難しましょう。近くに建物や車が無い場合は、姿勢を低くして最寄りの安全な場所に避難するようにしましょう。木の下は危険です。樹木等のそばに人がいると、木に落雷したあと電気が人体を通り感電死することがあります。また、避難する時、金属を身に付けていても差し支えありませんが、傘をさしたり、ピッケルが頭より高くつき出たりすると落雷を受けやすくなり危険です。金属、非金属にかかわらず持ち物を体より高く突き出さないようにすることが大切です。

・竜巻

竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻で、多くの場合ろうと状(図3)や柱状の雲を伴っています。積乱雲が急激に発達する時、雲の中で強い上昇流が起きなんらかの原因でメソサイクロンと呼ばれる渦が発生します。積乱雲の中でメソサイクロンが出来ると、積乱雲の下にろうと雲と呼ばれる渦巻き状の雲ができ、これが地上に達すると竜巻と呼ばれます。

竜巻は、ものすごい力で家を破壊したり自動車を持ち上げたり、電車を倒したりします。2012年5月6日には、茨城県つくば市、栃木県真岡市などで発生した複数の竜巻により、死者1名、負傷者52名のほか、住宅全壊89棟、半壊194棟という被害が発生しました。また、2013年にも、9月2日にさいたま市から千葉県野田市などにかけて発生した竜巻で、けが人多数、建物が倒壊したり電柱が倒れるなどの被害が発生しています。



気象庁は、雷注意報を発表している、さらに竜巻発生のおそれがある場合に府県単位で「竜巻注意情報」を発表します。身近なところで、真っ黒い雲が近づき周囲が急に暗くなる、雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする、ヒヤッとした冷たい風が吹き出す、大粒の雨や「ひょう」が降りだすなどの現象があれば、発達した積乱雲が近づいている兆しとなります。竜巻の接近を察知したら、竜巻を見続けることなく、屋外では、頑丈な建物内に移動する、シャッターを閉める、屋内では、家の1階の窓のない部屋に移動する、窓やカーテンを閉めるなど、安全確保に努めることが大切です。

(続く)



図3:ろうと雲(2001年4月4日 鳥取空港にて)



著者紹介 有本 敏雄(ありもと としお)

鳥取県出身。防災士。2011年4月から再任用で大阪管区気象台予報課天気相談所技術主任現職。鳥取地方気象台を振り出しに、西郷測候所、大阪管区気象台、彦根、広島、松山、京都地方気象台等を歴任、2011年3月気象庁定年退職。趣味は写真、カラオケ、釣りなど。

広 告